

一社) 福島県定巡連絡会の 取り組み及び当事業所の事例報告

一般社団法人全国定期巡回・随時対応型訪問介護看護協議会 理事長
社会福祉法人ライフ・タイム・福島 理事・事務局長
森 重勝

定巡連絡会の発足

- ▶ 平成25年11月発足
- ▶ 福島県内の事業所、6事業所が入会
(福島市 4事業所 伊達市 1事業所、会津若松市 1事業所)
- ▶ 会費 12,000／年間 (1か月1,000円)
- ▶ 準会員費 6,000／年間 (1か月500円)
- ▶ 総会、理事会の開催
- ▶ 講演会、実践報告会、研修会の開催

定巡連絡会の現状

- ▶ 福島県内の事業所、37事業所中20事業所が入会
- ▶ 研修については、全て参加費無料
- ▶ 定期巡回サービス事業所だけでなく福島県内の地域包括、グループホーム、特養、老健等すべてのサービス事業所に周知し参加受け入れをしている

H25.11.4 設立記念講演会の実施

コラッセふくしま 4階 多目的ホール 参加人数120名

講演 「地域包括ケアにおける定期巡回・随時対応サービスの役割」

講師 厚生労働省 老健局 振興課 課長補佐 稲葉 好晴 氏

パネルディスカッション

テーマ「定期巡回・随時対応サービスの現状と課題、将来への展望」

コーディネーター NPO法人地域ケア研究所 理事長 蓬田 隆子氏

パネリスト

福島市 健康福祉部 長寿福祉課

課長 近江 善夫氏

伊達市保原地域包括支援センター

管理者 森 美樹氏

定巡事業所「向日葵」

管理者 坂田 悦子氏

ロング・ライフ24時間事業所

所長 森 重勝

連絡会の事業計画

事業計画（案）

1. 各種研修会の実施

サービス内容のあり方を振り返るとともに、職員、及びサービスの質の向上を図るために行う

2. 定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の普及に向けた広報活動を行う

3. 行政との連絡調整を行う

4. その他、地域包括ケアシステムの推進を目指した活動をする

連絡会の主な内容

- ▶ 平成27年より、福島県地域医療介護総合確保基金補助金の活用
- ▶ 5月理事会、総会の開催
- ▶ 3月理事会の開催
- ▶ 年3回の研修会の実施
 - 5月 公開講座の開催
 - 9月 実践報告会の開催
 - 11月 定巡連絡会、勉強会の実施

現在の会員数

▶ 令和5年現在の会員数

▶ 正会員 19事業所、準会員 1事業所 合計20事業所

福島市	11事業所	伊達市	1事業所
二本松市	1事業所	富岡町	1事業所
郡山市	4事業所	その他(山形)	1事業所
田村郡	1事業所		

▶ 会長1名、理事3名、監事1名



2019.9月
ふくしま健康長寿
フェスティバル
in会津若松



2023.5月
定巡連絡会主催
公開講座
講師 津金澤氏
in福島市



社会福祉法人 ライフ・タイム・福島 について



法人の概要

設立：平成2年6月

所在地：福島市

拠点：3拠点（福島市松川町・福島市伏拝・福島市吉倉）



ロング・ライフ
拠点
(松川町)



フクチャンち
拠点
(伏拝地区)

ライフ吉井田
拠点
(吉倉地区)

(8事業所)

介護老人福祉施設
短期入所生活介護
通所介護 訪問介護 訪問看護
定期巡回・随時対応型訪問介護
看護（夜間対応型訪問介護）
居宅介護支援
地域包括支援センター



(4事業所)

看護小規模多機能型居宅介護 居宅介護支援
サービス付き高齢者向け住宅 配食サービス

(3事業所)

認知症対応型共同生活介護
認知症対応型通所介護
地域密着型通所介護

◆ 基本理念 ◆

高齢者の
自立支援

安心・安
全・ほほえ
みの介護

利用者主体性の
サービス及び利
用者尊厳の介護

健全なる
施設経営



◆ 職員数 ◆ (令和5年2月1日現在)

法人全体 (136名)

介護・リハ職員・看
護 (113名)

一般職員
(23名)

基本給ベースアップの実施

**医療福祉
経営最前線**

自法人だけでは地域を支えられない
他法人との協力関係で全体最適を实践

施設から在宅まで多事業を展開 地域全体のケア体制強化へ



**社会福祉法人
ライフ・タイム・福島**
福島県福島市

施設から在宅まで多様な事業を展開する社会福祉法人ライフ・タイム・福島。理事長の三瓶松太郎氏は医療法人白寿会（病院、老健）と社会福祉法人福島福祉会（養護老人ホーム、通所・入所介護、訪問、定住）の両理事長を兼務し、あらゆるケア需要に対応できる体制を整えている。取材日はライフ・タイム・福島を訪問した。

社会福祉法人ライフ・タイム・福島
事務局長
森 重勝 氏

医療・福祉経営の新時代と人財を創る

Visionと戦略



vol.228
2023
2

VISIONと戦略 FUTURE CREATION

わたしたちの取り組み ～地域に根付いた介護施設を目指して～

社会福祉法人 ライフ・タイム・福島





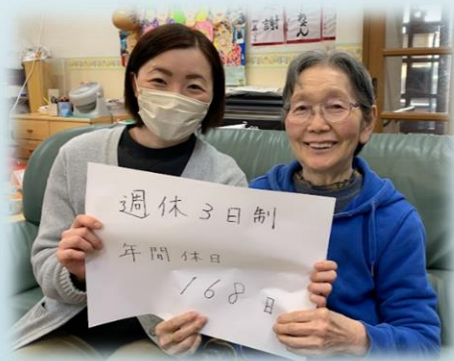
保健・医療・福祉サービス研究会

サービスの質を高めるには、職員の質も向上させなければならぬ。森氏が10年に入職して最初に取り組んだのは職員の処遇改善で、勤務形態と給与水準を改善した。その一環として同法人は2020年1月、非常勤も含めて全職員一律に2万円ベースアップを行い、10月の賞与は前年比で増額させた。それでも収支差率は約1%を維持している。

週休3日制の導入（グループホーム）

	週休2日制	週休3日制
休日数	月10日、年120日	<u>月14日、年168日</u>
勤務時間/日	8時間	<u>10時間</u>
総残業時間 (1か月平均)	20.8時間	<u>7.7時間</u>

13.1時間減！



『福島県モデル事業
週休3日制度導入支援事業』
(令和3年11月～令和4年3月)



<https://www.kfb.co.jp/news/fukushima/index.php?id=202302216155>

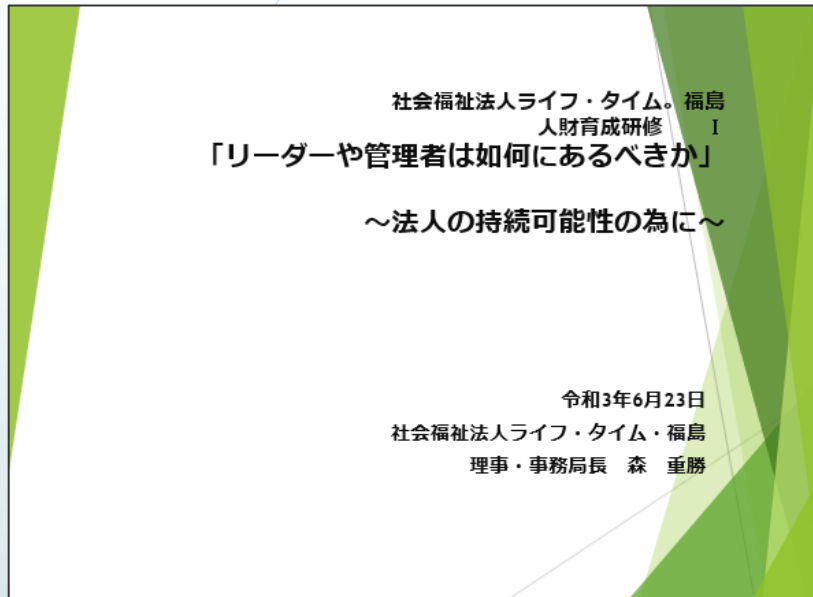
【ライフ・タイム・福島 森 重勝 事務局長】

「職員の応募が続けてきてきている」と「職員が明るく、体力的に負担に感じなくなってきたので、これから高齢化になって、職員の年齢が上がってきたとしても十分に対応できるのかなと思っています。」

当法人の研修について

- 新入職、中途採用、中堅職員、管理者等すべての職員対象に階層別に様々な研修を実施している
- 期間は様々（2～3日から1週間程度）

各種研修会の開催、及び参加 【内部】



森理事・事務局長の講義
「リーダー・管理者養成研修」
~法人の持続可能性の為に~



各種研修会の開催、及び参加 【初任者研修】



- 毎年11月～1月に法人の職員が講師となり、法人事業所にて初任者研修を開催している。
- 柔軟な配置転換（事業所数を多くすることで初めの部署が合わなくても異動できる）

合格お祝い金の支給 10,000円

- 介護福祉士
- 社会福祉士
- 精神保健福祉士
- 介護支援専門員

各種研修会の開催、及び参加 【内部】

令和4年度 社会福祉法人ライフ・タイム・福島 新入職員研修会 日程表

3月 日	曜日	研修時間	時間数 (目安)	内 容	役職等	担当者	備 考
28	火	8:30~8:40		朝のミーティング(ロング)			場 所 : ロング・ライフ
		8:50~9:00		オリエンテーション	訪 問 管 理 者	桑 原 忍	
		9:00~9:50	1	法人沿革・職員心得	施 設 長	久 保 田 尚 子	
		10:00~10:50	2	法人内 事業所の概要説明	事 務 局 長	森 重 勝	
		11:00~12:00		組織人・社会人としての心構え、接遇			
		13:00~13:50	1	個人情報保護・ハラスメント関係	事 務 次 長	大 内 利 彦	
		14:00~14:50	2	認知症についての理解	特 養 ケ ア マ ネ	星 拓 大 朗	
		15:00~15:50					
16:00~16:50	1	施設内見学・説明					
17:00~17:30	0.5	感想・レポート記入					
29	水	8:30~8:50		朝のミーティング(ロング)			場 所 : ロング・ライフ
		9:00~9:50	1	事故防止・苦情解決委員会	事 故 防 止 委 員 会	塩 勇 吾	
		10:00~10:50	2	医務全般・感染症対策	特 養 看 護 長	高 橋 康 子	
		11:00~12:00					
		13:00~13:50	1	栄養全般	管 理 栄 養 士	斎 藤 智 美	
		14:00~14:50	2	リハビリ全般(講義・演習)	理 学 療 法 士	玉 造 徹 徹	
		15:00~15:50					
		16:00~16:50	1	接遇・マナー	特 養 介 護 長	石 井 達 也	
17:00~17:30	0.5	感想・レポート記入					
30	木	8:30~8:50		朝のミーティング(ロング)			場 所 : ロング・ライフ
		9:00~ ~10:30	1.5	高齢者虐待・権利擁護 身体拘束廃止	地 域 包 括 管 理 者	藤 倉 子 優 子	
		10:40~ ~12:00	1.5	介護基本技術(講義・演習)	特 養 介 護 長 特 養 介 護 副 長	石 井 達 拓 也 崎 真 (桑 原 忍)	
		13:00~13:50					

各種研修会の開催、及び参加 【内部】

令和4年度 介護支援専門員受験対策講座 日程表

日	時	内 容	講 師
4月5日	15:00	開講式	蓬田先生・宮崎NS・星CM
4月19日	13:30	福祉介護分野	蓬田先生
5月17日	18:00	介護分野	星CM
6月7日	18:00	医療分野	宮崎NS
6月21日	18:00	医療分野	宮崎NS
7月5日	18:00	第1回テスト	宮崎NS
7月19日	13:30	第1回テスト解説	蓬田先生
8月9日	18:00	第2回テスト	星CM
8月23日	18:00	第2回テスト解説	星CM
9月6日	—	第3回テスト	自宅学習
9月13日	18:00	第3回テスト解説	宮崎NS
9月20日	—	第4回テスト	自宅学習
9月27日	18:00	第4回テスト解説	星CM

法人ケアマネ
養成研修

全13回の
講義・テスト・
解説により、
介護支援専門員
の試験合格を
支援している

外部研修へ多数の参加 認知症介護実践者等研修

認知症介護実践者等研修修了者

研 修 名	人 数	割 合
認知症介護実践者研修	67	46.26%
認知症介護実践リーダー研修	18	13.23%
認知症対応型サービス事業管理者研修	35	25.73%
小規模多機能型サービス等計画作成担当者研修	31	22.79%

法人全職員 136名

上記に加え、認知症介護指導者研修修了者が法人内に3名在籍(内、特養1名)しており、県の認知症介護実践者等研修事業へ職員派遣している

職場内研修会 企画プロジェクトチームの設置について

1.目的

- ①階層別研修会(新人・中堅・リーダー管理者など)、テーマ別研修会(ハラスメント・メンタルヘルス・コミュニケーション接遇マナー、コンプライアンスなど)を計画的、継続的に行うことで、職員のスキル、職場環境の向上を図りたい。
- ②職員が明確な目的を持って就労し、キャリアアップを目指すことができる職場体系を構築したい。
- ③人材の指導・育成などの研修体制を整えることで、法人の組織力・イメージアップ、離職防止などにつなげたい。
- ④例年、新卒向けに3月末の3日間に渡って開催している研修は継続していく。

各種研修会の開催、及び参加 【内部】

	新入職員	中堅職員	管理者等	
テーマ別研修	感染症予防			
	虐待防止			
	身体拘束廃止			
	コンプライアンス			
	BCP			
階層別研修	ハラスメント(基礎)		ハラスメント(管理)	
	メンタルヘルス(セルフ)		メンタルヘルス(管理)	
	接遇マナー		マネジメント	
	コミュニケーション(基礎)		コミュニケーション(応用)	コミュニケーション(指導)
	社会人の心構え	認知症(基礎)	認知症(応用)	認知症(職員指導)
	初任者研修	実務者研修	介護福祉士養成研修	ケアマネ養成研修
	認知症介護基礎研修	認知症介護実践者研修	認知症介護リーダー研修	認知症介護指導者研修
			計画作成担当者研修	認知症介護管理者研修

事例 29

タブレットを活用し、帳票数や二重入力の削減、
転記の効率化を図り、記録時間を削減

社会福祉法人ライフ・タイム・福島 特別養護老人ホームロング・ライフ

介護老人福祉施設

文章量削減

ICT

カイゼン

人材育成

介護ロボット

成果

質の向上

- タブレットの活用により、「点在していた情報の集約」「写真の活用」「音声入力による情報量の増加」など、記録する情報が充実した。

量的な効率化

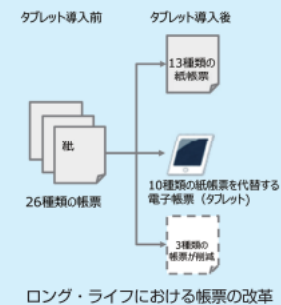
- 記録業務の転記が削減され、1か月1人当たりの記録作業時間が170.4分削減された。
- 必要な記録帳票を見直す機会になり、帳票が3つ減り、全体の約1割を削減できた。

課題

記録する人によって、記録内容や単位が異なるなど、情報が統一されていなかった。メモから帳票、帳票から別の帳票（個人別記録用紙や月次報告書類等）へ転記する中で、転記ミスや記入漏れが発生していた。月の施設情報をまとめる月報作成の負担が重く、毎月末に残業時間が増えていた。

解決のステップ

- 1 タイムスタディにより、記録帳票の多さや転記作業が課題であることが分かった。
- 2 現行の帳票を洗い出し、転記が発生しているもの、実務上不要なものを選別し、必要なものみに整理した。
- 3 電子化する帳票類を、システム会社、介護リーダー、主任で検討し、移行後の記入内容・ルールを整理した。電子化できないものは紙で残しつつ、移行できる部分から導入を進めた。
- 4 導入後は、組織全体で記録の重要性に意識が向けられ、介護リーダーや主任のみならずその他の職員からも「この帳票は今後も活用したい」「この帳票は無くしてもいいのではないか」といった意見が出るようになり、引き続き改善を図るための検討が行われている。



介護サービス事業（施設サービス等）における
生産性向上を図るガイドライン

施設・事業所向け手引き

より良い職場・サービスのために
今日からできること
（業務改善の手引き）

パイロット事業改訂版

福島県

「生産性向上発信モデル事業」

令和4年10月～令和5年3月実施

- ①現状の課題を気づきシートに書き出し、ホワイトボードに貼って因果関係図を作成。
- ②因果関係図を文章化し、解決したい課題を明確にする。
- ③課題に対する打ち手を検討し、ICT・介護ロボットの効率的な活用策を実施

取り組みの成果（一部）

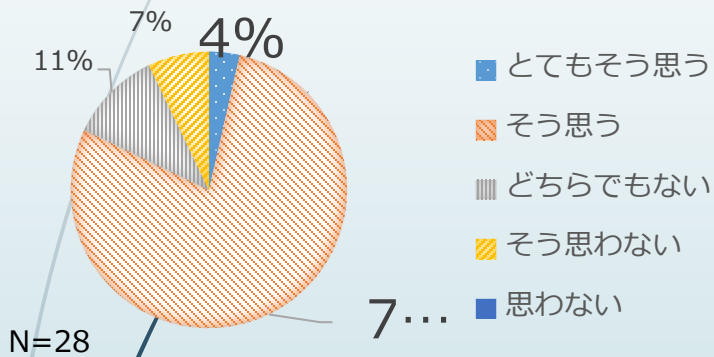
1. 法人理念、事業所行動指針についての研修会を実施し、意志統一
2. 眠りスキャン、センサーマット、エスパシア(低床ベッド)の操作・設置マニュアルを作成し、全職員へ周知
3. OJTフローチャートを作成し、組織の意思伝達システムを明確化
4. 転倒・転落アセスメントスコアリングシートを作成し、リスクを数値化し事故防止
5. グーグルフォームでの職員アンケートによる業務軽減・精神的負担軽減の測定



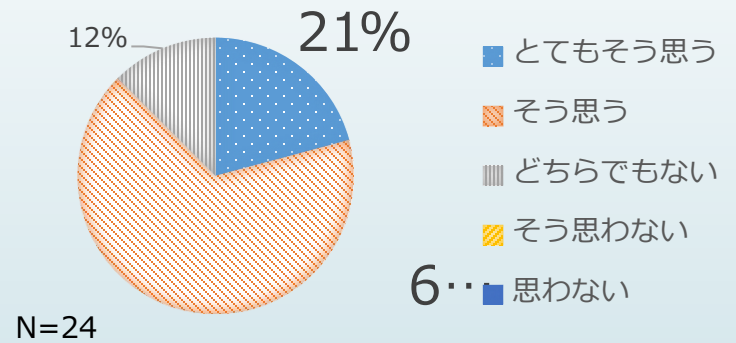
令和4年度生産性向上発信モデル事業 職員アンケート(効果測定)

①センサーマットの使用目的・対象者について理解している。

①センサーマットの使用目的・対象者について理解している。



①センサーマットの使用目的・対象者について理解している。

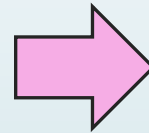
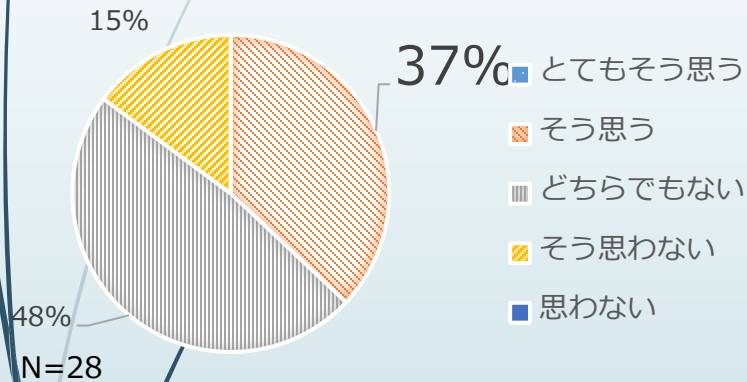


ICT機器活用への
理解度が促進した

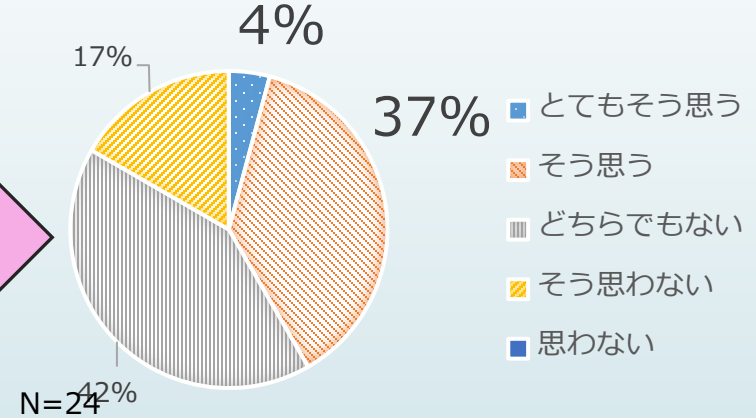
令和4年度生産性向上発信モデル事業 職員アンケート(効果測定)

⑪特養理念に沿った介護が提供できている。

⑪ 特養理念に沿った介護が提供できている



⑪ 特養理念に沿った介護が提供できている



無関心層が減少した。
課題を感じ、取り組む職員が増えた。

地域との連携 松川地域認知症SOSネットワーク模擬訓練



回を重ねるごとに開催地区が増え、各地区の地域性や特色に合わせた訓練を実施。運営も住民主体で行う。

地域住民との交流復活 オレンジカフェ



コロナ禍であっても、感染症対策を万全に行い、
少人数で地域住民の方々とオレンジカフェを毎月開催

地域との連携 「ロングな介護」



地域みんなが集う場所



『ロング』な介護

《ご案内》

皆さんが集まって、「介護の困りごと」や「お悩み相談」、「簡単な健康体操」みなさんの“知りたいこと”などについての「ミニ講座」などを開催しています。
家族介護をされている方はもちろん、健康・地域・介護に興味や関心をお持ちの方など、介護の専門職が皆さまのご参加をお待ちしております。（また、ご依頼に応じて出張・出前での開催も行っています。）
※新型コロナウイルス感染症の状況に応じて開催を見送る場合もございます。

☆ 場所：松川学習センター 大会議室にて
☆ 日時：毎月 第4土曜日の10:00から 1時間程度

令和4年：4/23・5/28・6/25・7/23・8/27・9/24
10/29・11/26・12/17
令和5年：1/28・2/25・3/25

（※ 予約や申し込みの必要はありません、無料 で参加して頂けます。）
（※10月は第5土曜日、12月は第3土曜日の開催になります。）

【お問い合わせ】


福島市松川地域包括支援センター
社会福祉法人ライフ・タイム・福島
指定居宅介護支援事業所
(特別養護老人ホーム ロング・ライフ 内)

☎ 567-5800

担当：宮崎百恵・藤倉優子



毎回 15 - 20 人程度の地域住民の参加がある



最期まで支えられる定期巡回 サービス事業所の取り組み

～ロング・ライフ24時間訪問介護看護事業所の現状～

当事業所の強み

- 事業参入時より（H24～）在宅利用者へサービス提供
- 独居、高齢世帯、認知症、ガン末期看取り等あらゆる状況の地域の利用者へサービス提供
- 柔軟な対応と初動の速さ

職員体制 (R5.10月現在)

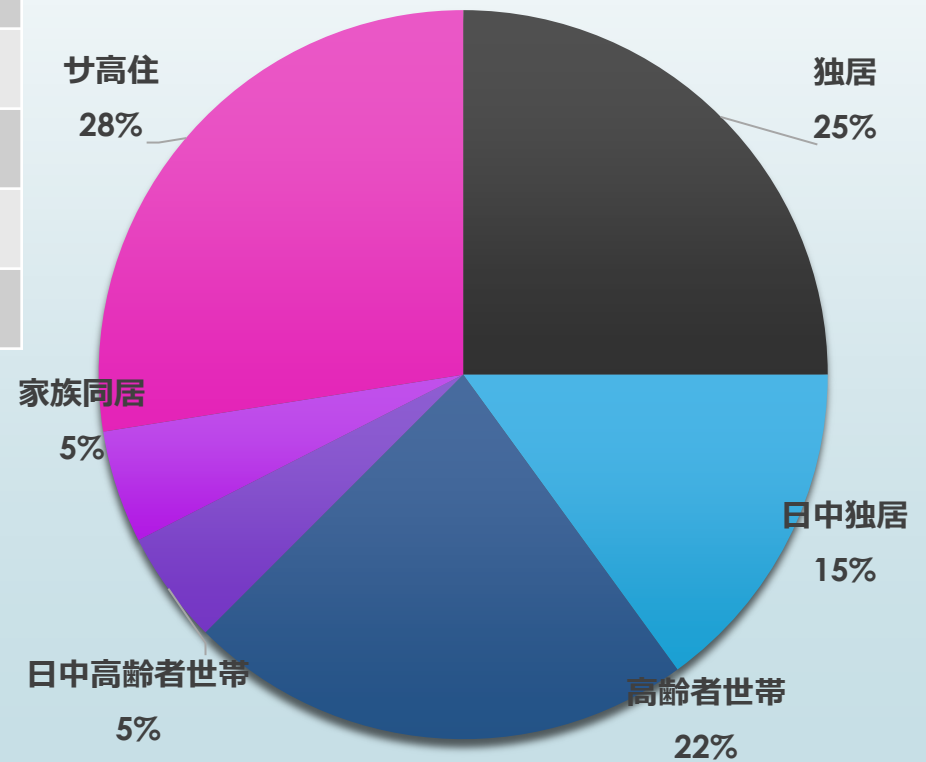
事業所	オペレーター
定期巡回 職員	14/15名中
訪問介護事業所 職員	4名/4名中

+ 併設する特養職員11名

世帯状況 (R5.10月現在)

33

世帯状況	人数	割合
独居	10	25%
日中独居	6	15%
高齢者	9	22%
日中高齢者	2	5%
家族同居	2	5%
サ高住	11	28%
合計	40名	100%

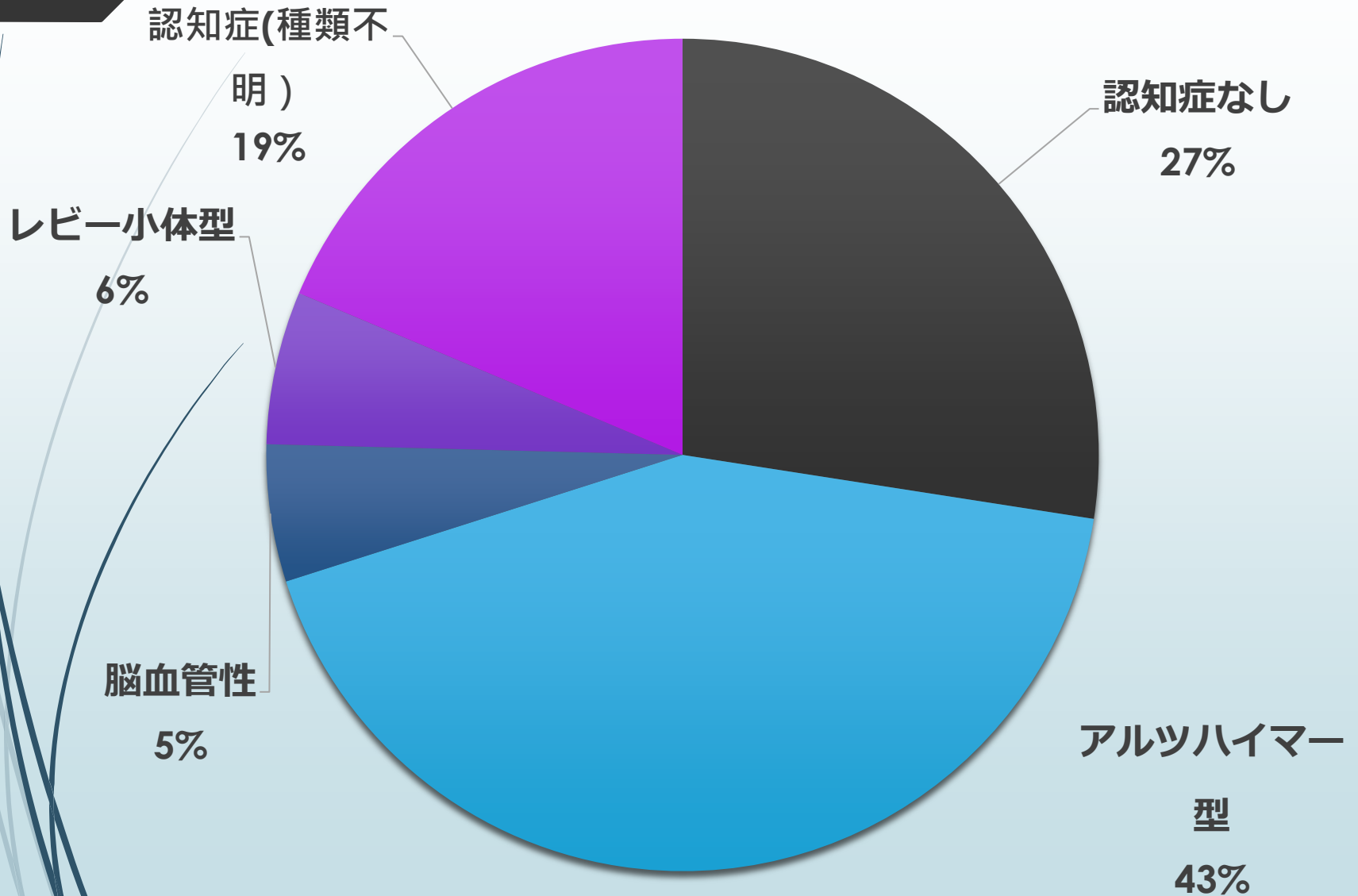


利用者状況 (R5.4～10月現在)

令和5年度		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
利用者人数		42	44	45	47	41	44	40
要介護度	1	8	9	9	12	10	10	10
	2	16	17	17	18	15	15	14
	3	9	7	8	9	7	7	6
	4	5	7	7	5	6	8	7
	5	4	4	4	3	3	4	3
平均要介護度		2.5	2.5	2.6	2.3	2.4	2.6	2.5
1日平均利用者人数		36.4	35.4	39.9	38.2	33.6	34.1	33.2
訪問のべ回数 (回)		2487	2488	2754	2706	2369	2360	2386
1日平均回数 (回)		82.9	80.2	91.8	87.2	76.4	78.6	76.9
訪問のべ時間 (時間)		660.4	648.5	666	652.1	586.9	559.4	577.4
1日平均時間 (時間)		22	20.9	22.2	21	18.9	18.6	18

当事業所の認知症利用者の割合

令和4年年4月～令和5年3月実人数74名



事例紹介

- 80歳 女性
- 要介護3
- アルツハイマー型認知症（H28年診断）
- 認知度：Ⅱb（R3年診断）
- 夫、子供家族と6人暮らし
- 徘徊、転倒を繰り返し寝たきりとなる
- 入院中拒食があり、家族希望で退院・在宅療養
- 定期巡回サービスで1日2回訪問（排せつ介助） + 全身清拭・更衣で訪問（週2回）

支援経過から

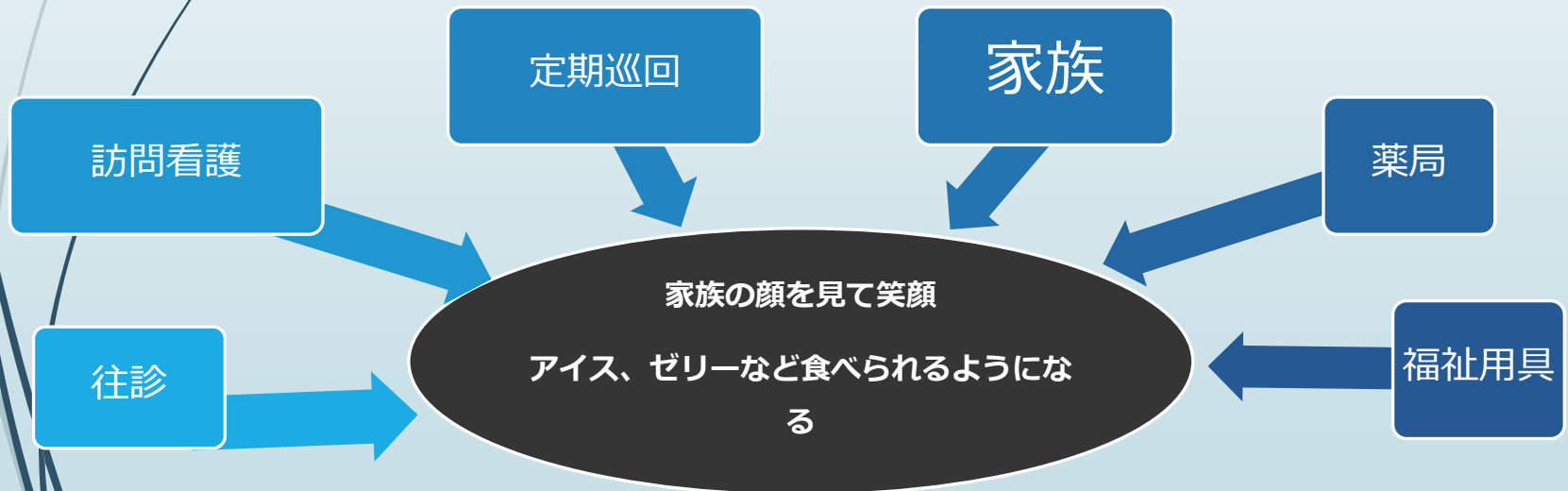
徘徊、転倒、骨折

ベッド上寝たきり

入院中
拒食

コロナで
面会不可

【定期巡回サービスを中心に調整】



最期を迎えるまでの2週間、家族と笑顔で過ごすことができた

考察

38

- ➡ 認知症があっても、住み慣れた地域・自宅で最期まで暮らせる。
- ➡ 訪問看護サービスと連携することで医療依存度の高い認知症利用者の受け入れも可能。
- ➡ コロナ禍で入院すると面会できない状況の中在宅で家族と最期まで過ごすための選択肢となりうるサービス。
- ➡ 定期巡回サービスは利用者の生活状況に応じて非常に柔軟な対応が可能なサービス→ 1日複数回の声掛け・見守りがあれば自立できる認知症の利用者の対応に有効

まとめ

定期巡回サービスは認知症の人が自宅で暮らすための選択肢

当たり前の選択肢になるくらい普及が必要

多職種との協働、家族の理解が必須